

健康登山11: 周辺の山06(箕ノ裏ヶ岳、瓢箪崩山)

コース	国際会館駅 0.9km/14 岩倉駅 1.4km/22 実相院 2.2km/38 登山口 1.0km/47 箕ノ裏ヶ岳 1.2km/28 墓地 1.6km/24 静原神社 2.0km/42 江文峠 2.6km/74 瓢箪崩山 4.2km/81 岩倉駅 1.1km/15 国際会館駅		
水平距離	18.2km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	19.4km		
累計高低差	登り818m、下り818m		
標準歩行時間	6:25		
実績歩行時間	6:40		



山行報告

山行日 2006・4・6(木) 天候 快晴 参加者 10名

国際会館8:35 岩倉駅8:50 実相院9:31 登山口10:06 箕ノ裏ヶ岳10:46 墓地
行動 11:35 静原神社12:08~12:38 江文峠13:08 寒谷峠14:23 瓢箪崩山14:35 寒谷
峠15:00 飛騨ノ池15:31 岩倉駅16:00 国際会館駅16:15

記 録

洛北の里山歩きの2回目である。今回は岩倉駅から箕ノ裏ヶ岳を経て静原まで行き、江文峠からUターンして瓢箪崩山に登り岩倉に戻る周回コースとした。

地元在住のHR氏によると岩倉はミニ京都だという。岩倉を京都市内だとすれば瓢箪崩山が比叡山にあたり、箕ノ裏ヶ岳が愛宕山に見立てられるという話である。

静原神社を昼食場所と決めて、そこから逆算して国際会館出発を8:30とした。岩倉駅付近からは正面に箕ノ裏ヶ岳が右手に瓢箪崩山が見えた。山住神社で準備運動をした後、岩倉具視幽棲旧宅、実相院等を経て繁見坂を峠まで登った。この峠が標高200mで登山口となっている、ここから432.7mの箕ノ裏ヶ岳まで40分ほどで登った。

山頂からの眺望はなく直ぐに下山し、少し景色の見えるところで休んだ。雑木林の疎林で日光が適度に地面にあたっており、花に詳しいHKさんがカタクリの群生地を見つけられた。快晴の午前11時頃で見事に咲いていた。

十字路になっている墓地(坂原峠)から300.4mの三角点には登らず、静原神社まで直行し昼食をした。昼食後は2月度と同じ東海自然歩道(鞍馬~大原)を通り江文峠へ向った。十字路を直進すると尾根伝いで瓢箪崩山に行ける道がありそうである。

江文峠で自然歩道と別れ寒谷峠へ向った。少し登ったところに大原三山がきれいに見える伐採地があると説明したが、樹木が成長して木立越しに見える程度だった。寒谷峠から瓢箪崩山を往復し、寒谷道を通り岩倉へ下山した。瓢箪崩山からは東側が開けていて比叡山が正面に見えた。

快晴、微風、全コースが落ち葉の絨毯で汗もかかず快適な里山歩きが楽しめた。

岩倉には史跡も多く、これらと組み合わせれば面白い歴史散策コースが作れる。

今回は念入りにストレッチをして歩いたがスリップによる捻挫が起こった。これは誰にでも起こり得ることであり健康登山=安全登山でなければならないと痛感した。

周辺の山 (岩倉駅～箕ノ裏ヶ岳～静原～瓢箪崩山～岩倉駅)



岩倉から
箕ノ裏ヶ岳
08:52



岩倉から
瓢箪崩山
08:52



岩倉具視
幽棲旧宅
09:26



実相院
09:30



繁見坂を登る
10:06



箕ノ裏ヶ岳
山頂にて
10:47



カタクリの花
11:20



江文峠
13:08



寒谷峠へ向う
13:31



瓢箪崩山にて
14:43

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：岩倉～蓑ノ裏ヶ岳～瓢箪崩山～岩倉）

- ◎ 国際会館駅周辺：弥生時代の遺跡で岩倉忠在地遺跡の名称がある。
- ◎ 十王堂橋：もとの橋のたもとに十王堂があり岩倉村の人々は葬送のとき、この橋を渡って北西にある墓地に向った。（三途の川）
- ◎ 十王：冥府で死者を裁く十人の王。亡者は7日ごとに順次各王の裁きを受け、来世の場所を定められるという。35日目が閻魔王。いずれも仏、菩薩の化身とされる。
- ◎ 心光院：浄土宗尼寺、1645年（正保2年）の創建。木造阿弥陀如来（平安）と両脇侍（室町）はどちらも国の重文。
- ◎ 山住神社：元岩座大明神、明治以降社名を現在の石座神社に譲ってそのお旅所となった。御神体は巨石。山住＝山祇(やまずみ)＝山の神霊。大山祇神＝大山津見神。
- ◎ 延命地藏：鎌倉時代、磨滅が甚だしく目無地藏とも呼ばれている。この石仏には様々な逸話がある。
- ◎ 岩倉具視幽棲旧宅（国史跡）：岩倉具視は中納言堀川康親の次男で岩倉具慶（ともよし）の養子となる。1854年侍従に進み、公武合体論の立場から和宮降嫁に奔走して尊王派に憎まれ、1862年に辞官落飾、洛外塾居を命ぜられて5年間ここに隠棲した。この間倒幕論に転じ志士と密会、王政復古をなしとげた。
- ◎ 実相院：関白近衛基通の孫、静基僧正の開創、門跡寺院で岩倉門跡、実相院門跡ともいう。天皇、親王の子が入寺して寺運も栄えたが明治維新とともに衰退し、什器を売却し、建物の多くを府？療病院の建設に寄進した。六つの宿坊が四つまで病院に変わった。
- ◎ 石座(いわくら)神社：明治維新の際、山住神社の旧号を譲り受けたもの。大雲寺の鎮守社の（東社八所明神社）と十二所明神社（西社）の2字からなっている。東社（天照大神ほか7柱）、西社（天御中主神ほか11柱）。岩倉の氏神もかねており参道の左右にある宮座が氏神の名残をとどめている。10月23日未明に祭礼で大松明を燃やす。
- ◎ 大雲寺：今は荒廃しているがもとは大寺であった。971（天禄2年）日野中納言文範（ふみのり）が真覚（しんがく）上人を開山として創建。六観音像・六天像を安置した講堂、五大堂、灌？頂堂、法花堂、阿弥陀堂、真言堂の六堂宇を備えた寺院で985年には63代冷泉天皇、皇太后昌子（しょうし）内親王が観音堂を建立。12世紀前半に数度山門衆徒の焼打ち、中世にも兵火で衰え、戦国時代にも再度兵火にかかり、信長の比叡山焼討ちの際残る堂宇も全焼した。境内の観音水（智弁水）は古来霊水とされた。

- ◎ 昌子内親王陵：寺の東に陵がある。
- ◎ 岩倉上蔵城跡：実相院の西の裏山に土塁が残る。室町時代山本氏の支城(上蔵＝あぐら)
- ◎ 岩倉小倉山城跡：山本佐渡守尚親（ひさちか）が近江国山本から移築したもので、応仁の乱で細川政元軍と戦っている。永禄年間（1558～70）織田信長に攻められ落城した。岩倉小倉山にあった。
- ◎ 岩倉長谷城跡：山本氏の支城、岩倉北東長谷（ながたに）の地、標高 210m 位の尾根中腹にあった。
- ◎ 静原城跡：山本氏の別城。天正元年（1573）織田信長の命により明智光秀に攻撃され落城。部分的に石垣や石段、曲輪（くるわ＝土や石で築き巡らした囲）や土塁が残っている。
- ◎ 朗詠谷碑：飛騨池の西、藤原公任（きんとう）966～1041、75 歳で没。子供の頃から秀才、59 歳のとき突然ここに隠棲。公任はここで『和漢朗詠集』を撰したので朗詠谷ともよばれる。この谷は 70 代後冷泉天皇の皇后の小野皇太后（藤原教通（のりみち）の娘、観子（かんし））が天皇没後出家して小野山荘あらため掌寿寺としたところと伝える。（聖護院長谷殿跡でもある）
- ◎ 岩倉盆地：三方を山に囲まれ南が開け東西から南に向って川が蛇行、南方に小山がある風水に恵まれた地。京都盆地の雛形ともいえる。（東西に瓢箪崩山と蓑ノ裏ヶ岳、比叡山と愛宕山に対比）岩倉全体が平安京の北の守護で大小二つの理想的風水の構造になるように平安京が建設されたことになる。
- ◎ 岩倉花園城跡：岩倉東山地、標高 310m 山頂から南尾根に築城、山本氏の支城。
- ◎ その他左京区の山城跡
 - ・ 三宅八幡城跡 ・ ・ ・ 岩倉盆地東山地、佐竹氏の支城。山麓に三宅八幡宮あり。
 - ・ 八瀬城跡 ・ ・ ・ 八瀬御蔭山と川をはさんで対峙する尾根の先端に造られた小規模な山城。佐竹氏の支城。
 - ・ 御蔭山城跡 ・ ・ ・ 御蔭山中腹、標高 230m 付近。土豪佐竹氏の本城。
 - ・ 松ヶ崎城跡 ・ ・ ・ 岩倉山本氏の出城。天文 5 年（1536）比叡山門徒の焼き討ちで落城。
 - ・ 修学院雲母城跡 ・ ・ ・ 標高 340m 付近に築かれた小規模な山城。
 - ・ 一乗寺山城跡 ・ ・ ・ 標高 440m 比叡山の中腹。渡辺氏の山城。
 - ・ 一乗寺延暦寺山城跡 ・ ・ ・ 一乗寺山城跡から東へ約 1.2km 比叡山中腹の標高 550m に築かれた大規模な山城。渡辺氏の居城？
 - ・ 北白川城跡 ・ ・ ・ 瓜生山城、勝軍山城ともいう。大永 7 年（1528）細川高国が居城。
 - ・ 中尾城跡 ・ ・ ・ 大文字山山系、天文 18 年（1549）足利義晴築城。日本最

初の鉄砲防御を施した城。天文 19 年落城。

- ・ 如意ヶ岳城跡 ・ ・ ・ 応仁、文明の乱頃すでに陣塞化。細川高国、足利義輝なども城塞を利用。標高 466m 山頂を本丸とした。
- ・ 灰山城跡 ・ ・ ・ 如意ヶ岳城から 800m ほど離れた稜線上に築城。
- ・ 神楽岡城跡 ・ ・ ・ 吉田山、宗像神社あたりに造られた。
- ・ 東岩倉山城跡 ・ ・ ・ 南禅寺の東、大日山の尾根筋に築かれた。(桓武朝のとき東岩倉が祀られた)
- ・ 下鴨城跡 ・ ・ ・ 賀茂川と高野川の合流点につくられた平城。

◎ 四岩倉 : 北岩倉 = 山住神社 (一切経 = 大蔵経を岩の下に埋めさせた)

西岩倉 = 金蔵寺 (西山)

東岩倉 = 観勝寺 (大日山にあり、応仁の乱の陣所。戦火で消失)

南岩倉 = 明王院不動堂 (下京区石不動町)

男山を南岩倉とすると各岩倉を結ぶ交差点が平安京羅生門の位置になる。

◎ 岩倉 (いわくら) : マリオ語で IWA-KURAE (イワ・クラエ) 沢山の尾根が出ている土地の転訛、語尾の「エ」が脱落したもの。

◎ 山城とは : 天然の要塞である山頂や山腹に築かれた古代、中世的な城郭様式。

平常時は山麓の根小屋や邸宅に住み、戦闘時に山城に籠った。